対面授業

# 国語科教育法Ⅲ

Methodology of Teaching JapaneseⅢ

SANO Masatoshi
佐野　正俊

科目ナンバリング：UTL-3-201-18

## ■授業の目的及び到達目標

国語科教育におけるテスト作りの方法を学び、主に中学校国語科の教材研究と模擬授業をすることで、国語科の教員として必要な知識と国語科の授業の実践的な能力を身につけることを授業の目的と到達目標とする。

## ■授業計画

1 国語科におけるテスト作りの方法①
　国語科におけるテスト作りの方法を学び、実際にテストを作り、参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
2 国語科におけるテスト作りの方法②
　国語科におけるテスト作りの方法を学び、実際にテストを作り、参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
3 国語科におけるテスト作りの方法③
　国語科におけるテスト作りの方法を学び、実際にテストを作り、参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
4 模擬授業①
　小説（序盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
5 模擬授業②
　小説（中盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
6 模擬授業③
　小説（終盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
7 模擬授業④
　説明文（序盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
8 模擬授業⑤
　説明文（中盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
9 模擬授業⑥
　説明文（終盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
10 模擬授業⑦
　古文（「万葉集」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
11 模擬授業⑧
　古文（「古今和歌集」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
12 模擬授業⑨
　古文（「新古今和歌集」）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
13 まとめとフィードバック
　授業内容のまとめとフィードバックを行う。国語科教育法IIIにおける学びを振り返り、国語科教育についての理解を深める。

## ■授業の方法

半期の授業の序盤では国語科におけるテスト作りの方法学び、実際にテストを作って、参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。中盤からは中学校の教材（小説・説明文）の模擬授業を行う。終盤は古文（「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」）の模擬を行う。模擬授業では、参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。

## ■予習・復習

予習：教材となっている文章の予習に取り組むこと。模擬授業のために教材研究を深めること。
復習：模擬授業での相互批評を受けて、改善すべき点を確認すること。模擬授業で指摘された改善点を踏まえて、次の模擬授業に望むこと。
模擬授業を担当する場合は、教材研究に基づく学習指導案が完成するまでの準備（予習）の時間が必要である。その他の場合は予習・復習として、それぞれに 1 時間程度かけることを想定している。

## ■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

平常点（模擬授業等 80%、質疑応答 20%）で評価する。試験やレポート提出は行わない。

## ■教科書・参考書

教科書
文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』（東洋館出版社・2018）
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　国語編』（東洋館出版社・2019）
参考書
全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る　中学校・高等学校国語科教育研究』（東洋館出版社・2019）
町田守弘編『実践国語科教育法（第 3 版）』（学文社・2019）
山元隆春他編『あたらしい国語科教育学の基礎』（溪水社・2020）

## ■関連する科目

「国語科教育法I・II」・国際日本語学科の専門科目全般・教職課程の科目全般

## ■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は高等学校国語科教諭として 19 年の実務経験を有する。